

7月



美園小だより

平成29年6月30日
さいたま市立美園小学校
第75号 児童数1,367名
Tel 048(812)6611
Fax 048(878)6660

心の眼

校長 佐々木 清隆

さいたま市は、6月を「いじめ撲滅強化月間」としています。入学、進級して2ヶ月余りが経ちました。学校生活にも慣れてきたこの時期は、一生懸命に頑張ってきたものの、心のどこかで悩みがあったり、知らないうちに人を傷つけてしまっている場合があります。自分自身や友達との人間関係を振り返り、改めていじめについて考えることをねらいとした強化月間です。保護者の皆様には、10日（土）の学校公開や個人面談でおさまの様子をお伝えしました。各学級ではいじめについてスローガンを決め、一人ひとりの言葉も考え、右のカードに記入をしました。子どもたちの心の中で、形だけで終わらないように、日々の行動や考え方につなげていく取組を続けていきます。朝会では私から以下のような話をしました。『いじめ、いじり等について、やられている子（被害者）、行っている子（加害者）、その周りではやし立てたり、面白がっている子（観衆）、見て見ぬふりをする子（傍観者）の4つの状況があること。このような状況の中で、「気づく勇氣、伝える勇氣、やめる勇氣、謝る勇氣」を持つことが大切です。』と伝えました。いじめに限らず、子どもたちの生活上の問題は、教師の指示や対応により解決されることがあります。しかし、中には一時的な改善はあっても、子どもたちが教師に保護を求めたり、自らの判断で問題を解決する力が不足している場合もあります。問題解決の全てを子どもたちに委ねることに限界はあるものの、教師の指導・援助のもとに、子どもたち自身で生活上の問題を解決していく力を育てていくことも、これからの人生にとって大切なことです。

<メッセージカード>

◇

6年生では、6日（火）に総合的な学習の時間「私たちにできること 福祉を考えよう」で、全盲の水出智津さんを講師に招き、お話いただきました。水出さんは、先天性緑内障のため薄れゆく視力の中で、触る、聴く、匂いをかぐなど、目以外の使える所をたくさん使って生活をしてきたこと、あきらめないでいろいろな事に挑戦してきたことなどを子どもたちに伝えてくださいました。水出さんのひと言ひと言に子どもたちは真剣に耳を傾けていました。最後に話された、「今日、皆さんが聞いたこと、感じたことを家の人、親戚の人に伝えてください。私の周りには困っている時、助けてくれた人、声をかけてくれた人、優しい人がたくさんいました。みなさん、心の優しい人になってください。」という言葉が今も心に残っています。

金子みすずの詩「星とたんぽぽ」に、「昼のお星は眼に見えぬ 見えぬけれどもあるんだよ 見えぬものでも あるんだよ」という一節があります。いじめをしない心・許さない心、優しい心など、目には見えないけれど大切なことがたくさんあります。私たちは、授業や行事等の取組の中で、目には見えないけれど、子どもたちの心の変化に気づく必要があります。ご家庭では誉めたり、認めたり、共に悩み、考える時間を大切にさせていただきたいと思います。そして、気になる様子や言動の変化、何かおかしいのでは？と感じた時は、遠慮なく学校へご相談ください。



<盲導犬アニーと共に>